令和６年度　第２回南空知定住自立圏共生ビジョン懇談会　議事録（要旨）

●　日時、出席者等

日時	令和６年１０月１７日（木）１３時３０分～１５時２０分
会場	岩見沢市役所３階　会議室３－５
出席委員等	委員１３名、圏域市町企画担当部課長９名
報道	２社
事務局等	事務局４名

●　議事録（要旨）

会　議　次　第	協　議　内　容
１　開会 ２　協議事項 『担当者部会等の開催状況並びに南空知定住自立圏共生ビジョンの骨子（案）について』	【１】担当者部会等の開催状況 別紙資料のとおり 【２】定住自立圏共生ビジョンの骨子（案） ◆共生ビジョンの構成 第１章　定住自立圏共生ビジョンの策定にあたって 第２章　南空知圏域の概況 第３章　南空知圏域の将来像 第４章　定住自立圏において推進する具体的取組み 資料編 ◆定住自立圏の名称及び構成市町 名　　称：南空知定住自立圏 中 心 市：岩見沢市 構成市町：夕張市、美唄市、三笠市、南幌町、由仁町、長沼町、栗山町、月形町 ◆定住自立圏共生ビジョンの期間 計画期間：令和７年度～令和１１年度（５年間） ◆南空知圏域の将来像 別紙資料のとおり

	◆共生ビジョン（当初）の施策体系 別紙資料のとおり ◆「定住自立圏において推進する具体的取組み」の概要に対する意見 （１）医療【救急医療体制・地域医療】 （委員） 小児専門医の確保は大変な状況。美唄市は市立病院を定年退職した医師が、嘱託として２人で対応している。大学病院からの派遣も難しく、医師の勤務希望先は札幌圏が多く、地方の希望者は少ない。 （委員） 資料の現状と課題に書かれているとおりで、岩見沢市もぎりぎりで運営している状況。休日は、開業医や市立病院と労災病院で回しているが、夜間も含め５年もつかどうかのかなり厳しい状況である。 市立病院と労災病院が統合すると医師が減り、更に深刻化していくことが想定される。 （委員） 住民が安心して暮らせる、安心して子どもを産み育てる環境として医療は一番重要。南空知で医療体制を確保することは喫緊の課題として取り組むべき。 （２）教育【社会教育・生涯学習】 （委員） 骨子の内容に、圏域住民の交流促進を図るとあるが上手くいくかどうか疑問。学校運営協議会に出席しているが、近隣住民でさえなかなか学校へ足を運んでもらえない状況であり、自分に関係の無い所から来てくれるか心配がある。 また、図書館サービスの充実とあるが、今は学校でもタブレットの時代。図書館にどれだけの子どもたちが行くのかは疑問がある。 （委員） 読み聞かせのようなイベントは良いことなので、情報を共有して人が集まり、図書館の利用促進に繋がれば良い。 （３）産業振興【農業】 （委員） 現状と課題①「スマート農業などの作業効率化に向けた取組みが地域ごとに行われている。」と、方針「農作物の生産性向上」の内容

	がぼやっとしている。広域連携という視点からいうと、具体的に何を持って進めるのかがわかりづらい。 （事務局） トラクターの自動運転などのスマート農業は作業の効率化が図られることに対してイメージをしやすいものの、それ自体は「生産性の向上」の取組みの全てではない。実際に各市町で取組んでいる内容はもっと多様に分かれており、まずは、品質の向上も含めて連携できるところから取組んで行くという方向性を骨子で示したまでであり、具体的な取組内容はこれからの協議で定まってくる。 （委員） 生産性向上も担い手の確保もかなり取組んでおり、ここに記載されていること以外にも取組みは多々ある。例えば、新規就農者の支援とあるが、遊休農地の課題や後継者対策と合わせて進めていく必要がある。 鳥獣対策は、生息地はつながっているので南空知だけではなく、広い範囲で見ていく必要がある。 （４）産業振興【商工・雇用、観光】 （委員） 人材の確保という面では、各分野で外国人労働者が増えており、受入れ環境を整えることも大事。岩見沢市と商工会議所では、事業者が安心して外国人を雇用できるよう、道の委託事業で日本語学習支援者養成講座を開催している。 また、消防や警察への連絡が外国語対応となっていることはあまり知られていないのでチラシを作成し、ハローワークや空知総合振興局とも連携して周知しており、この取組みは全道へと広げていきたいと考えている。 （委員） 現状と課題①「人口減少、高齢化の進展に伴う地域経済の縮小、後継者問題、労働力不足などへの対応が地域全体での共通課題。」はまさにその通りで、夕張市は人口減少が急速に進み、後継者不足なども顕著で、経済も疲弊してきている。買い物も市内だけでは完結しないので、近隣市町まで行っている。公共交通も不足していて、タクシーも少ないので、夜出歩くことも減り、店も客が来ないので辞める悪循環になっている。

	（５）防災【防災】　※加速化事業 （委員） 消防の立場から話すと、防災関係は行政側が行っていることが多いが、消防と防災は切り離せないので、連携して対応していく必要がある。 （委員） 消防関係の内容となるが、消防の DX は、東京消防庁で取組みが進められており、南空知管内でも情報を共有しながら導入を検討している。 （６）公共交通【公共交通】　※加速化事業 （委員） 乗務員不足が顕著となっており、事業者としても今後どこまで出来るか懸念している。路線のニーズを把握しながら、市町内の路線もそうだが、他市町へどのように移動するか、圏域として地域の足をどう守るかを考えていなければならない。 （７）ICT インフラ【ICT】　※加速化事業 （委員） 自治体 DX ということでガバメントクラウドが進められているが、どこまで行政の業務効率化が図られるかということはある。 高齢者等を対象としたスマートフォン講習会で、情報リテラシーは上がってきているが、インターネットを使えるだけではなく、各個人のパーソナルなところを含めて情報サービスも整えていく必要がある。例えば、健康、医療、防災関係のアプリケーションを管内で整備して共有化しサービスをしていくなど、これらの生活機能をいかにデジタル化して実現していくかも課題である。 また、自治体や民間が自由に使えるデジタルネットワークを整備することにより、圏域内での情報流通が盛んになっていくと考える。 また、圏域内で IT 企業は少ないが、IT 人材も不足している。市内の高校では情報コミュニケーション科はあるがほとんど市外へ就職・進学して戻ってこない。そういった人材の確保のための支援も考える必要がある。 （８）移住・交流【移住】 （委員） 移住・交流は、少子高齢化対策という部分が大きい。以前、自治体の人口ビジョンの作成に携わった際、都市部よりも農村部の方が特

	殊出生率は高かった。農村部の方は、自分の仕事に誇りを持って働いている方が多く、コミュニティにも積極的に参加しており、それらが子どもを産み育てようというモチベーションの一部に繋がっていると考える。 　移住プロモーションとして、住んでいる人の魅力と、そこで誇りを持って働いている人の魅力を再発見して打ち出すことが案の一つで、それがこれからどんどん働きたいという方に対し、同じ仲間がいると認識できる切り口になる。 　地方創生が始まった当初、自治体主催の街コンを行う動きがあったが、自治体が行うと参加者を囲い込んでしまう。圏域内での人口の動きはプラスマイナスゼロと考え、圏域の交流を促進させることにより、お互いのまちに人を呼び込むと賑わいに繋がる。 　また、地域おこし協力隊を上手く活用すると新しいアイディアが出てくる可能性がある。 （9）人材育成【人材育成】 （委員） 　先日、ゼミ生と前回の懇談会の内容をもとに意見交換を行った。学生の活動はキャンパス内や岩見沢市内で完結することが多いが、なかにはエリアを跨いで活動したいという学生もいる。地元岩見沢のいろいろな方にお世話になっているが、大学としても活動の範囲を広げていきたい。 （１０）職員研修【職員研修】 （委員） 　広域的・多角的な視点で政策形成できる人材の育成とあるが、これからの自治体を考えたときに、各市役所や役場内でも縦割りではなく部署横断的に政策形成を出来る人材の育成が必要。 【３】共生ビジョン懇談会・担当者部会の今後の流れ 別紙資料のとおり
３　その他	事務局から連絡事項。
４　閉会	